

## 聖心の月に

主任司祭 吉池好高

六月はイエスの聖心の月です。この月の日々あらためて、わたしたちの心をイエスに向けましょう。そのためにもう一度、福音書をじっくりと味わいましょう。福音書は弟子たちが知ることのできたイエスの心の中にある思いを伝えているのです。イエスの心の中にある思いがイエスの全てです。イエスを知るためには、福音書に語られている弟子たちの心に深く刻み込まれ、彼らが語り伝えずにはいられなかったイエスの心の思いをわたしたちの心を開いて受け止めなければなりません。

そのようにして知ることのできるイエスの御心は、イエスに向けられている神の思いと神に向けられているイエスの思いをわたしたちに垣間見せます。福音書に語られているイエスの全てを知ることによってわたしたちはイエスによって啓示された神を知るのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」。

ここに、弟子たちが宣伝した神の御心が示されています。弟子たちが出会い、その弟子とされたイエスは神の独り子であったのです。独り子と言わざるを得ないほどに、唯一無二の絆で神と結ばれている、神の独り子であるのです。その神の独り子が弟子たちの生きるこの世に現れてくださったのは、神がその愛の心をこの世に示すためであったのです。弟子たちは、彼らが師事するようになったイエスのうちにこの世に生きる全ての者に示されている神の愛を見出すことができたのです。イエスによってこの世に注がれている神の愛を見出すことができたのです。この世に生きている全ての者は、神がその最愛の独り子をも惜しまずに、お与えになるほどの愛の対象であることを弟子たちは知ったのです。

イエスが神の独り子であるのは、これほどの神の愛を世に知らせるために、それが神の愛の御心の望みであると受け止めて、十字架の上に、ご自分のいのちを与え尽されたからです。イエスのお十字架において、その独り子をお与えになるほどに世を愛された神の御心が示されているのです。このような神の愛の御心に打たれて、この世の全てを越えて、伏することが、イエスが示された救いへの道なのです。